

会長就任にあたって

一般財団法人 日本航空協会 会長 **植木 義晴**



この度、本年6月をもちまして、前会長 篠辺修の後任として日本航空協会会長の重責を拝命いたしました植木義晴です。1975年に日本航空株式会社に入社して以来、運航乗務員として、また経営層の一員として、一貫して空の安全と発展を追求してきました。その経験を礎に、歴史ある当協会の会長として力を尽くせることを大変光栄に存じます。

さて、私ども日本航空協会は、航空宇宙分野の発展に貢献するため、多岐にわたる活動を展開しております。機関誌「航空と文化」の発行や講演会を通じて広く情報をご提供するとともに、先人が築いた貴重な航空遺産を後世に伝えるための保存・認定活動や、我が国唯一の航空専門図書館の運営もその重要な柱です。次代を担う若者たちが大空への夢を育むための模型飛行機教室や、各種航空スポーツへの支援も積極的に行っております。また、増加する航空需要の根幹を支える国際線の発着調整を、中立性・公平性を堅持して担うと共に、他の公益組織の事務局も受託し、業界全体の円滑な運営に貢献しております。

目を転じれば、日本の航空宇宙を取り巻く環境は、今まさに大きな変革の時代を迎えています。新型コロナウイルスの影響を乗り越え、航空需要は力強く回復しており、2025年の関西万博開催なども追い風に、人々の往来は一層活発化することでしょう。さらに、民間企業の参入により宇宙産業の市場は急速に拡大し、私たちの活動領域は「空」から「宙」へと大きく広がっています。こうした変化の中で、AIやドローンといった新技術は、少子高齢化などの社会課題を克服し、航空宇宙分野をより安全で革新的なものへと進化させる原動力となるに違いありません。

当協会は、前身である帝国飛行協会が1913年に設立されて以来、112年の長きにわたり、日本の空とともに歩んでまいりました。この歴史をしっかりと受け継ぎ、皆様とともに航空宇宙の輝かしい未来を切り拓いていく所存です。関係各位におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。